

シラバス参照

科目名	薬学概論
配当年次	1年次
開講期間	春学期
単位数	1
担当教員	井上 直子(イノウエ ナオコ) 井上 裕(イノウエ ユタカ) 上田 秀雄(ウエダ ヒデオ) 内田 昌希(ウチダ マサキ) 大嶋 繁(オオシマ シゲル) 大竹 一男(オオタケ カズオ) 大山 翠(オオヤマ ミドリ) 木村 聡一郎(キムラ ソウイチロウ) 木村 光利(キムラ ミツトシ) 関 智宏(セキ トモヒロ) 高山 淳(タカヤマ ジュン) 夏目 秀視(ナツメ ヒデシ) 畑中 朋美(ハタナカ トモミ) 村田 勇(ムラタ イサム) 一色 恭徳(イツシキ ヤスノリ)
期間・曜日・時限・教室	春学期 火曜日 1時限 10－102

※	
授業の目的・目標	(1) 授業の概要 薬学概論は、初年次教育の一環として、講義、講演ならびに体験学習を通じて、薬学領域ならびに薬剤師の職域やスキルの概要を捉え、それらの基盤となる人間性や倫理観を身に着けます。 (2) 授業の目的・目標 医療者である薬剤師は、医療全般の制度や仕組み、薬剤師が関わる職域・職能を理解し、他の医療者との連携を図ることで初めて社会に貢献できます。本授業は、専門的な学習を開始する窓口となる導入教育科目です。従って、医療人を目指す薬学生として、薬学の歴史と領域、薬剤師業務と医療制度、生命および医療倫理、薬剤師として必要な基本的スキルを知り、薬学の学問分野と薬剤師の職能との関連性について理解することを目的とします。 薬剤師業務や薬に関わる活動に対する理解を深めることで、修学の目的を明確化し、今後の学習を円滑に進めることを目標とします。 (3) 修得できる力 ①知識・理解、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学習経験と想像力思考力 (4) 授業の到達目標 DP-①②④を最終的な到達目標とします。 薬学概論の多くの授業は、薬局および病院、ならびに、製薬関連企業での実務経験を踏まえた内容を授業に取り入れます。
準備学習等の指示	授業は、初年次教育科目であるフレッシュマンセミナー(薬学)Aと連携したスケジュールで進めます。授業内容に合わせて、授業時間や受講場所が正規のものと異なる場合があります。受講にあたっては事前に周知された講義スケジュールを確認ください。また、授業内容によっては、準備、持参物の指定、予習が必要となります。WebClassに授業資料や指示事項が周知されますので必ず確認の上対応ください。 また、本科目は、秋期開講のフレッシュマンセミナー(薬学)Bと連携します。科目名は異なりますが、2つの科目で展開する授業内容の関連性を意識することで学習の目標を達成します。
講義スケジュール	1 薬学および薬剤師の歴史 (夏目) ・医療や医薬品に関する歴史的背景を理解し、薬学や薬剤師が医療に対して果たしてきた役割を概説できる。(知識・理解、社会的責任) →[A-(1)-(4)-1], -(1)-(4)-2], -(1)-(4)-3]] 2 医療における薬剤師の役割 (井上直) ・日本の医療費および医療制度の概略を理解し、医療現場における薬剤師の業務について概説できる。(知識・理解) ・日本の医療費および医療制度の概略を理解し、救急医療、災害医療、公衆衛生における薬剤師の業務を概説できる。(知識・理解) →[A-(1)-(2)-1], -(1)-(2)-2], -(1)-(2)-3], -(1)-(2)-6], -(1)-(3)-3], -(1)-(3)-4]], [B-(3)-①-1], -(3)-①-2], -(3)-①-3], -(3)-①-4], -(3)-①-5], -(3)-①-6], -(3)-①-7], -(3)-②-1], -(3)-②-2], -(3)-②-3], -(3)-②-4], -(4)-①-5]] 3 社会のニーズと薬剤師業務 (大嶋) ・栄養、運動、セルフメディケーションなど通じた地域住民の健康な生活確保に対する薬剤師業務の重要性について説明できる。(知識・理解) ・在宅医療における薬剤師業務および在宅医療における薬剤師の新たなスキルの重要性について説明できる。(知識・理解) →[A-(1)-(2)-6], B-(4)-①-1], -(4)-①-2], -(4)-①-3], -(4)-①-4], -(4)-①-6], -(4)-②-1], -(4)-②-2], -(4)-②-3], -(4)-②-4], -(4)-②-5]] 4-5 不自由体験 (関智) ・講義や講演および自らの不自由体験を通じて、高齢者や障害を抱えている生活者およびその介護・介助にあたる人の思いを理解できる。 ・不自由体験を通じて、生活に不自由を抱える生活者の気持ちを考えることができる。(社会的責任) →[A-(3)-②-1], -(3)-②-2]] 6-7 生命倫理と医療倫理①② (上田) ・生命現象や医療の科学的な取り扱いに関する倫理的な考え方の基本を概説できる。 ・科学技術の進歩と倫理的問題の変遷について概説できる。(倫理観) ・生命倫理および医療倫理に関わる身近な問題について討議することができる。(倫理観、論理的思考力) →[A-(2)-①-1], -(2)-①-2], -(2)-①-3], -(2)-①-4], -(2)-②-1], -(2)-②-2], -(2)-②-3], -(2)-③-1], -(2)-③-2], -(2)-③-3], -(2)-③-4], -(2)-④-1], -(2)-④-2]] 8-12 早期体験学習 (内田) ・医療の担い手としてふさわしい態度で薬剤師の業務を見聞する。(態度) ・薬学概論で学んだ薬剤師の役割や業務、医療者としての倫理観や姿勢を薬剤師の活躍の場を見聞することで整理し、かつ、自身の意見とし

	て発表・討論する。(知識・態度・理解) ・患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度) ・地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度) →[A-(1)-①-1), -(1)-②-1)], [F-(1)-①-1), -(1)-①-2)] 13 薬学概論まとめ ・薬学概論の内容を統合、紐づけして、学びの目標を設定することが出来る。
教科書	スタンダード薬学シリーズⅡ1 薬学総論Ⅱ 第2版. 薬学と社会(東京化学同人)日本薬学会編
参考文献	スタンダード薬学シリーズⅡ1 薬学総論Ⅰ. 薬剤師としての基本事項(東京化学同人)日本薬学会編
授業の方法	講義(30%): 教科書、配布資料に基づいて行う。 SGD(30%): 課題に基づいてグループ討論を行う。 体験型学習(30%): 施設見学やシミュレーション授業を行う。 発表と討論(10%): テーマに対するグループ発表を行い、発表・討論する。
成績評価方法	1. 評価方法: 報告書とプロダクトおよび授業への参加姿勢 2. 割合: 報告書(70%)、プロダクト(20%)、授業への参加姿勢(10%) 3. 評価基準: 報告書とプロダクトにおける理解度・意見の整合性、また、別に定めるルーブリック評価表(薬学科のルーブリック評価3と本授業独自のルーブリック)に応じて総合的に評価を行います。
オフィスアワー	各担当教員を参照
居室	井上直子 21-301室 井上 裕 22-501室 一色恭徳 22-505室 上田秀雄 21-715室 内田昌希 21-707室 上田秀雄 21-715室 内田昌希 21-707室 大嶋 繁 21-301室 大竹一男 21-907室 大山 翠 21-613室 木村聡一郎 21-718室 木村光利 21-620室 関 智宏 21-423室 高山 淳 21-512/513室 夏目秀視 21-710室 村田 勇 21-801室 畑中朋美 21-616室
ホームページ	
その他特記事項	[SBOs] の記載のない項目は、本学独自の内容である。 本科目は、初年次教育科目に相当する。
添付ファイル	